

対話申込書

木更津市の「木更津市連携事業提案制度公募要領」に記載された内容について了承した上で、以下のとおり対話の申込みをします。

項目	記入欄
提案事業名称 ※テーマ設定型は、希望するテーマを【 】内にご記入ください。	【低速自動運転社会と市民のたまり場の構築】
事業者の名称	ガーデンフィールド株式会社
事業者の所在地	川崎市宮前区けやき平1番
担当者の所属部署	総務(代表)
担当者の役職・氏名	代表 廣田祐次
担当者のメールアドレス	hirota.yuji@garden-field.com
担当者の電話番号	090-5203-8627
提案の概要 ※補足する資料がある場合若しくはこの様式によりがたい場合は、別途資料を添付してください(様式に定めはありません)。	<p>空き地や空き家を利用して、遊び場やたまり場を多く設定して、移動手段として、安全安心で、飛び乗りも可能な、事故や故障前提の低速自動運転車社会を構築したいと考えています。(暮らしやすくなれば、自然とヒトモノカネが増えてくる。)</p> <p>スタートは木更津市様ですが、最終的には全国展開(及び世界展開)が要求されますので、各省庁や千葉県及び近隣の市町村様と、情報共有しながら、必要なお協力を要請しながら、また地域住民の意見を聞きながら、進めたいと考えています。</p>

技術内容の詳細につきましては、以下の URL をご参照下さい。

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_a59444c5c9a04d8e809ceb10c8229cdd.pdf

https://www.garden-field.com/_files/ugd/954e39_db1e1db1ab384de2a641e17f94ab310e.pdf

<具体的な進め方>

1. 概要

(希望者や推薦者がおられれば、席を譲りますが) 私がプロジェクトチーフとなり、毎週月曜日等の午後を使い、地域住民や海外からの希望者が居れば参列可能な、全開放型のプロジェクト会議を実施したいと考えます。

基本的に2023年7月（下期）から数年間、毎週月曜日（あるいは別の日）の午後に木更津市様の用意した会議室にて全開放型のプロジェクト会議を行う。

ノルマを課さず、また都合が悪い時は休める（審議を次回にまわす等・・・）
自由な雰囲気、地域住民の暮らしやすさ最優先の内容にしたいと考えます。

「年間スケジュール概要」

6月：「木更津システム」立ち上げのための準備会議を行う。（木更津市、広田）

7月～：「木更津システム」を運用する。（木更津市、千葉県、千葉大学・・・）

：将来の輸出産業を考慮し担当メーカーの公募を行う。（EU諸国を含める。）

1. たまり場（リニューアルを含む）の建設業者
2. 優先道路及び低速自動運転車の駐車場整備業者
3. たまり場の施設充実業者
4. 低速自動運転車（乗合バス&パーソナル仕様）；全車メーカー
5. 固定電池自動交換ハウス（建物担当）業者
6. 固定電池自動交換ハウス（ロボット担当）業者；希望車メーカー
7. 自動運転車管制システム&スマホアプリのホストメーカー&（GAFA）

8月～：上記1～7の業者を決定し、さらに低速自動運転車運行会社とたまりば運営会社を設定する。決定し次第、プロジェクトに参加していただく。

9月～トライアル発注（*）に対応した、各メーカーは12月末を目標に製品及び工具設計を行い、その進捗状況や課題（問題点）に関して、報告していただき、総合的な最適解を議論しながら、24時間移動が可能な便利社会の構築の準備及び遂行を行う。（木更津市、千葉県、千葉大学、テーマごとの担当業者、有識者（木更津市長が設定する）、国交省、経産省、環境省、チーフ広田が参加：国交省・経産省・環境省、各種組合はテーマにより、必要に応じ参加するか、あるいは自由参加とする。COP28での報告は国交省（未定）が行う。）

24年1月：トライアル発注の製造開始

24年6月：トライアル発注の設置完了

24年7月：トライアル運用～

24年8月：本発注：ニーズに100%対応した社会構築の準備開始

国内の全車メーカーに参加していただく理由として、今後エンジンが不要になり、担当の設計やサービスが不要になり、またEV時代では日本車はシェアを落とし、リストラの受け皿が必要であり、また国内および輸出で莫大な低速自動運転車の市場ができると予測されるからです。

<トライアル発注に関して>

将来の拡販での利益を考慮し、各メーカーは無償で行い、また各メーカーは国や千葉県に対し、独自に補助金申請等を行う。（トライアル発注での木更津市の費用負担はなし。本設置の費用は、低速自動運転車の運行収益でペイをする。

新しい開発システムとして、以下のようにバリウスリンク会議を設定し、そ

の状況をビデオ撮影することで、OUTOUT（図面と解説書）だけでなく、プロセスを紹介することで、「こんな条件なら、こっちの手段がいい等の情報で」応用が利き、より使いやすい資料（資産）になると考えています。

新しいビジネスの手法 バリウスリンク会議による開発

従来型

得意技術や設備の流用等で、企業又は企業群が取組みがしやすいものを提案

使いやすいものになっていない
マッチングしない、普及しない

世界初：24時間稼働の低速自動運転車社会

自治体も楽しく汗をかいて収益をあげる



(この3倍～5倍程度のイメージ)

服装自由
企業代表ではなく
個人としての意見を出す
なんでも自由に発言してよい

住民又は
使う人の意見を最優先
他人を批判せず、誰もが楽しい
気持ちになるように心がける。

取組がしやすいものではなく、世界共通の住民の使いやすいものにするを、第一優先とする。

バリウスリンク会議とは、住民又は使う人の意見を最優先させた開発システムであり、必要な技術は海外からでも調達し、開発を構成する企業群には、難しいノルマを設定せず、楽しく開発できるレベルで参加する。(偶然の特許技術は大歓迎)

木更津市、千葉県、千葉大学、テーマごとの担当業者、住民代表、必要に応じ、国交省、経産省、環境省…

図面及び開発プロセス(バリウスリンク会議の様態)を開示することで、普及を加速させる。

(諸技術に明るい) ビデオ製作&編集会社がバリウスリンク会議の状況をビデオ撮影し、日本語及び英語版を編集し、各15分程度にまとめ、木更津市のHPにて、会員のみ公開する。(当面G7内の企業のみ〇円を支払い会員になる。)

売上げの1%等、木更津市及び参加企業、住民が分配。

ノルマを設定しない、自由で、明るく楽しい雰囲気での会議では、種々のアイデアが出てくるので、そのプロセスも含め世界中に発信をしていく。(会員のみ)

木更津システム (KS) の収益構造について、G7 内の KS の導入を希望する自治体は、KS 会員となり、必要な発注額に 1.03 倍を予算化し、上乗せ分の 3% を KS に対し支払うものとする。

(KS は、KS 会員が発注したメーカー群には、図面やノウハウの提供や課題や問題点の相談を受付し、全面的にバックアップをする。)

1%は千葉県銀行協会が受け取り、「総貸出額+利息」を各銀行が受け取り、残りは税金支払いやボーナスとして KS 内で配分する。残りの 2%を人工光合成の研究やウクライナ復興機器開発 (ツリー型&井戸掘り機等) に投資をする。

日本がダメになった理由として、一つは「同調社会」の問題で、良い技術を生むことより、飲みケーション的なものが重視され、先見力のないイエスマン達がリーダーとなっていることと、「もったいない社会」の問題で、何億何十億と段階的に設備を拡充してきたので、うまく流用できるようしようとする動きが (=メーカー側の自己都合) ユーザーにとって、かゆいところに手が届かなくなってしまう点です。

根回し等がうまく効率化につながり、30年前は「同調社会」も有効だった。